施工要領書

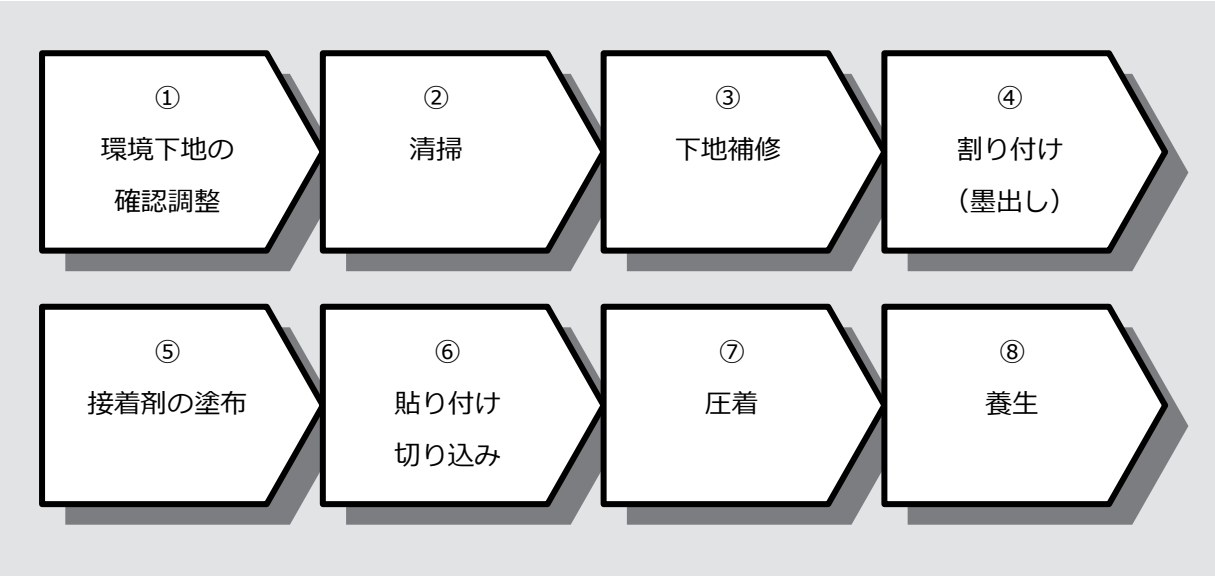
左官タイル Kotehada　標準施工方法（一般工法）

主な特徴

フロアタイルの表層に左官仕上げを施した塩ビタイルです。

一般的なフロアタイルと同様、温度によって寸法変化があり注意が必要です。

施工工程



①環境・下地の確認調整

施工時の環境(湿気、温度など)、下地の種類、状態(湿気、平滑性、汚れ、表面強度、合板などの場合のたわみ、段差、亀裂など)を確認します。

問題がある場合は改善策を講じてください。

②清掃

床の汚れ・ゴミ・ほこりなどは接着剤の効力を弱めクレームの原因に繋がるため、清掃にて確実に取り除いてください。

③下地補修

下地を確認した時点で、亀裂が認められたとき、平滑でないときなど、床用パテ・リフォームコート・フロアセメントなどで凹部を埋めて補修してください。

施工要領書

左官タイル Kotehada　標準施工方法（一般工法）

④割り付け・墨出し

《割り付け》

・部屋の縦横の最大値、壁の出っ張りや柱の位置を実測し、これに応じて割り付けます。

・割り付けは、墨打ちした基準線を中心にして部屋の左右対称になるよう行います。

・壁際には、商品の 1/2 以下の細かいサイズの端物はできる限り施工しないでください。サイズが小さいと美観を損ねるだけでなく、壁際は施工するタイミングが部屋の中央と比較して遅れるため接着剤が乾き気味で施工することが多く、小さなタイルだと剥がれやすくなってしまう可能性があります。部屋の隅に細かいサイズの端物がくる場合は、基準線を中心から半分ずらします。

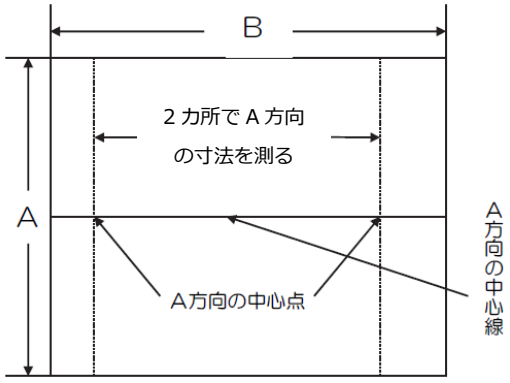
《墨出し》

・部屋の長手方向に基準線を墨出し、それを基に短手方向にも基準線を引きます。その 2 本の基準線に沿ってタイルを丁寧に敷き並べていきます。

A 方向の寸法を 2 カ所で測り、それぞれ 2 等分した位置を基準点とします。

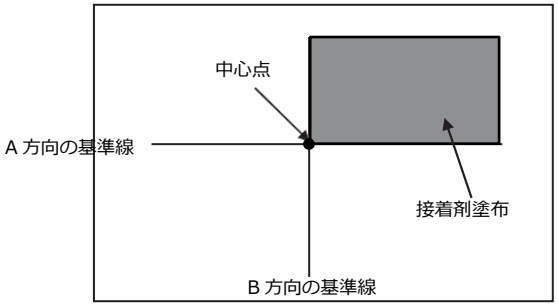
1. 基準点 2 点を結んだ線が B 方向の基準線であり、同じように A 方向の基準線も割り出します。

■基準線の墨打ち



⑤接着剤の塗布

基準線で仕切られた 1/4 面を中心から接着剤を塗布し、敷きこみます。敷きこみ作業時間に対する接着剤の貼り付け可能時間を考慮し、必要な分だけ塗布します。





施工要領書

左官タイル Kotehada　標準施工方法（一般工法）

・吸収性のある下地 (モルタルが多い)の場合、下地の水分グレードがⅠ(水分計 D モード 440 未満)のときは、アクリル樹脂系エマルション形接着剤を指定のくし目ごてを用いて使用してください。下地水分グレードが IIa (D モード 440 以上 620 未満)の場合は、ウレタン樹脂系溶剤形、またはエポキシ樹脂系溶剤形接着剤を使用して耐湿工法で施工してください。
※日本インテリア協会 耐湿工法用 下地水分指標
※使用水分計:(株)ケット科学研究所 高周波静電容量式水分計「HI-540」
(D モード、厚さ 40mm 程度、温度 AUTO)

・非吸水性下地(鉄板下地、重ね貼り、石、塗床など)の場合は、ウレタン樹脂系溶剤形、またはエポキシ樹脂系溶剤形接着剤を指定のくし目ごてを用いて塗布してください。
※接着剤のオープンタイム・貼り付け可能時間・圧着可能時間は温度・湿度により大きく左右されるため、施工時の温度・湿度には十分に注意し塗布量を決めます。エポキシ樹脂系溶剤形接着剤を使用する場合は指定の混合比を守り、必要量のみを混合し、貼り付け可能時間に注意します。貼り付け可能時間を超えた場合、接着不良の原因となるため注意してください。

⑥貼り付け・切り込み
《貼り付け》
所定のオープンタイムをとり、目地ずれしないように基準線の中心からタイルを貼り広げていきます。貼り付け可能時間内に作業を終えることに注意してください。
※オープンタイムが不足すると初期粘着力不足や、溶剤タイプの接着剤では床材の軟化が起こります。逆にオープンタイムの取りすぎは接着力低下に繋がり、くし目の跡が残ってしまうことがあります。オープンタイムは接着剤の種類や温度・湿度・下地にも影響を受けるため塗布した接着剤に触れてみて乾燥度を判断してください。

※本商品は手作業で仕上げており、タイルごとに異なる風合いが特長です。模様・凹凸・濃淡に個体差がありますのでお含みおきください。
※本商品は受注生産品です。製造ロットにより、色味や質感に差が生じることがあります。
※タイルの側面(目地部分)に左官材が回り込むことがあるため、目地部分の仕上がりは直線的なラインではなく、手仕事ならではの自然なゆらぎが生じます。

施工要領書

左官タイル Kotehada　標準施工方法（一般工法）

《切り込み》
壁際などの切り込みを必要とする部分をカットしていきます。壁面に施工するタイルをその手前のタイルに重ね、定規や別のタイルに合わせて切り込みます。一般的なフロアタイルと比較し、表面の左官層が硬質であるため、より強い力で複数回刃を入れる必要があります。
※切り込み枚数が多いときは、接着剤が乾燥してしまうため、接着剤を後で塗布するなど配慮が必要となります。

※表面からカッターでの切断が可能ですが、表面の左官層が硬質であるため、一般的な塩ビタイルと比較して、より強い力で複数回刃を入れる必要があります。
※ 過度な衝撃や折り曲げを加えると、表面の左官層にひび割れや欠けが生じる恐れがあります。取り扱いには十分ご注意ください。
※カットラインよりも長く切り込みを入れると、表面の左官層が削れて白い跡が残る恐れがあります。切り込みすぎにご注意ください。
※冬場の施工時であっても、商品表面を直接バーナーなどであぶらないでください。表面の左官層にひび割れや欠けが生じる恐れがあります。

⑦圧着
貼り付け後、速やかに圧着してください。壁際は片手ハンドローラー、それ以外の広い部分は大ローラーなどを使用してください。

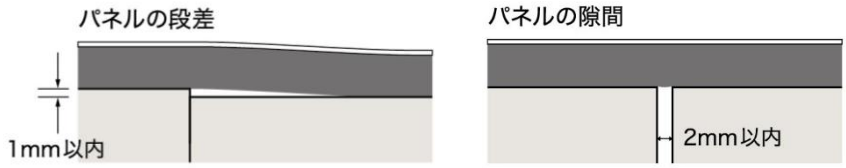
⑧養生
施工完了後、床材の浮き、膨れ、剥がれ、突き上げなどの不備、接着剤などによる汚れがないかを確認して監督者と協議の上、床面の汚れや破損を防止するため下記のような処置を行い、必要に応じて養生シートなどで保護してください。

- 土足侵入による汚染・損傷を防ぐために土足禁止にしてください。
- 養生シートを用いて床面の養生(テープで固定するときは、必ず、床面を汚染や変質させにくいアクリル系粘着テープを使用)を行ってください。
- 接着剤が完全に乾燥固化するまでは突き上げ・目隙・膨れなどを発生させる恐れがあるので重量物などのキャスターによるしごきは避けてください。

施工要領書

左官タイル Kotehada（OT5401~OT5407） OA フロア下地への置敷き施工方法

①下地の確認



下地パネルの段差は 1mm 以内・隙間は 2mm 以内に調整し、下地パネルがしっかりと固定されて動かないこと、たわまないことを確認してください。パネルの表面は凹凸の無いものを使用してください。

下地パネルの種類や表面形状によっては 左官タイル Kotehada の施工に適さない 場合があります。

下地 OA フロアに関して

- 固定式ではない OA フロアの場合、下地パネル自体が歩行や温度変化で動く場合があります。
- 下地が動くことでタイルの突き上げや反り、目隙やズレに繋がる場合があります。
- 表面形状がフラットではなく凹凸があり、またメッシュ形状になっているなど、
  タイルと接する面積が少ない OA フロアの場合、接着力が不足し接着不良に繋がる場合があります。
- OA フロアの表面形状によってはタイル表面に陰影が浮き出る場合があります。

②接着剤の塗布

GT もしくは GTS をスポンジローラー（中毛タイプ）を使用して下地パネル全面に塗布してください。

接着剤が透明になるまでオープンタイムをとってください。塗布量の目安は 40g/m²～80g/m²です。

塗布量が少ないと施工後に突き上げや目隙の原因となります。

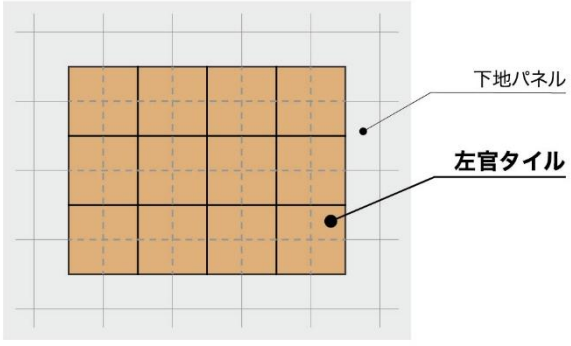
下地の吸水性や表面形状、歩行頻度に応じて塗布量を増やすなど調整してください。

③貼り付け

下地パネルとタイルの目地が合わないよう、1/2 ずらし施工（馬がけ施工）を行ってください。

室温にタイルをなじませてから、低温時は ゆるめ に貼り付けてください。

タイルの詰めすぎは突き上げの原因になりますのでお避けください。



施工要領書

左官タイル Kotehada（OT5401~OT5407） OA フロア下地への置敷き施工方法

④圧着

ボンドローラーなどでの圧着前にスペーサーを取り外してください。

■ 商品の特性・外観について

・本商品は手作業で仕上げており、タイルごとに異なる風合いが特長です。模様・凹凸・濃淡に個体差がありますのでお含みおきください。

・本商品は受注生産品です。製造ロットにより、色味や質感に差が生じることがあります。

・タイルの側面（目地部分）に左官材が回り込むことがあるため、目地部分の仕上がりは直線的なラインではなく、手仕事ならではの自然なゆらぎが生じます。

・表面は左官材の積層のため、歩行による摩耗で、表面の質感が変化したり、擦れ跡がついたりする場合があります。

・ワックスを使用する場合は、色味や質感が変わることがありますのでご注意ください。

■ 施工上のご注意

・表面からカッターでの切断が可能ですが、表面の左官層が硬質であるため、一般的な塩ビタイルと比較して、より強い力で複数回刃を入れる必要があります。

・過度な衝撃や折り曲げを加えると、表面の左官層にひび割れや欠けが生じる恐れがあります。取り扱いには十分ご注意ください。

・カットラインよりも長く切り込みを入れると、表面の左官層が削れて白い跡が残る恐れがあります。切り込みすぎにご注意ください。

・冬場の施工時であっても、商品表面を直接バーナーなどであぶらないでください。表面の左官層にひび割れや欠けが生じる恐れがあります。